

2026・第80回「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。
例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効があがりますよう、お願い申し上げます。
今年の標語は『**静かだけど、冒険中。**』です。期間中関係各位によって全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることになります。
近年、電子図書館サービスや学校教育におけるタブレットの活用が進み、読書環境が大きく変化してきました。その一方で、対面での読み聞かせや読書会の魅力、書店や図書館でリアルに本を選ぶ楽しさも再認識されています。図書館での各種行事、「BOOK MEETS NEXT」など出版界・書店によるイベントを通して、「読書週間」が紙・電子を問わず、本を通じて人とふれあい、世界が広がるようこびを、多くの方に実感していただく機会となることを願います。

公益社団法人 読書推進運動協議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げています。

(1) 国民すべてに読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や図書館で一冊の本を手にとってみる、そんな展示や行事を期待しています。

(2) とくに青少年に読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなった」といわれてきました。近年は、社会の急速なデジタル化やSNSの普及などで、ますます子どもたちの「読書」の時間がせばめられています。しかし、どんなにメディアが多様化しても、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、文庫、実演グループなど)は約11,700あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2023年度 全国読書グループ調査』より)。グループ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は、「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

(4) 家庭文庫、地域文庫の充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。各地域の公共図書館が充実し、読書グループや家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

2005年(平成17年)7月29日に公布された「文字・活字文化振興法」により、10月27日が「文字・活字文化の日」と制定されています。「読書週間」とともに、「文字・活字文化の日」もおおいに広めていただきたいと存じます。

2026年(令和8年)8月

公益社団法人 読書推進運動協議会
会長 野間 省 伸

「読書週間」についてのお問い合わせは、下記へお願いします。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6F

公益社団法人 読書推進運動協議会

☎(03)5244-5270 FAX(03)5244-5271

《ホームページ》<http://www.dokusyo.or.jp>

《メールアドレス》info@dokusyo.or.jp



読書推進運動協議会
公式 X (旧 Twitter)

記

名 称	2026・第80回 読書週間
主 催	公益社団法人 読書推進運動協議会 (主要構成団体＝日本図書館協会、全国学校図書館協議会、日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本書店商業組合連合会)
後 援	文部科学省(申請中)
期 間	10月27日から11月9日まで(「文化の日」を中心に2週間)
標 語	静かだけど、冒険中。

《行事内容》

- 「全国優良読書グループ表彰(第59回)」の実施
 - 「野間読書推進賞(第56回)」贈呈式開催
 - ポスターおよび広報文書配布
(公共図書館、全国の小・中・高等学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など)
 - その他、道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事实施の推進
- ## 《各種機関へお願いの行事内容》
- 公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書・雑誌展示会」「著者をかこむ会」などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施
 - 道府県の読書推進運動協議会による道・府・県単位の「読書大会」などの開催
 - 出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施

「読書週間」のマークを作成いたしました。週間の趣旨にご賛同くださり、期間中またはその前後を通じて貴社・貴館ご発行の雑誌・新聞・広報紙誌(表紙おもて・背・扉・本文中)、そのほか、展示、広告などにお取りあげいただきたくお願いいたします。

このマークの画像データ(イラストレーターファイル、JPEG、PNG)は当協議会ホームページよりダウンロードできます。ダウンロードできない場合は、メールにてお問い合わせください。

ポップ、しおりなどの各種素材も、9月初旬より順次、当協議会ホームページに用意いたします。



「読書週間」の前史とはじまり

「読書週間」の源流は、1924年(大正13年)。大量の出版物が消失した、関東大震災からの復興期に、日本図書館協会が、全国で読書の鼓吹・図書文化の普及・良書の推薦などを目的とした行事を展開しました。のちに「図書館週間」と名づけられたこの行事には出版界も参加し、年中行事として定着しました。しかし、1939年(昭和14年)、戦時下に発令された「一般週間廃止令」により、その幕を閉じることになります。

このような戦前史をもつ「読書週間」は、1947年(昭和22年)、終戦の2年後、まだ戦火の傷痕がいたるところに残っているとき、「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」と決意をひとつに、出版社、取次会社、書店と公共図書館が力をあわせ、新聞、放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回が開催されました。

そのときのイベントの反響はすばらしく、翌年の第2回からは、文化の日を中心にした2週間と定められ、この運動は全国に広がっていきました。それから80年、「読書週間」は日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民」の国となりました。

「読書週間」が、国民ひとりひとりの読書への関心と、読書習慣の確立への契機となることを願ってやみません。